



# 東洋公衆衛生学院 同窓会 会報 第15号

〒151-0071 東京都渋谷区本町 6-21-7 東洋公衆衛生学院 同窓会 事務局,  
Tel 03-3376-8511 Fax 03-3376-4345 E-mail yama@toyo-college.ac.jp

## コンテンツ

1. 令和5年度第1回、第2回 役員会報告
2. 在校生の近況
3. 同級生からのメッセージ(連載)  
～東洋公衆衛生学院と私～

## 令和5年度役員会報告

同窓会役員会は年3回、7月、10月、2月に実施をしています。昨年まで、Covid-19の感染拡大の影響で、リモートでの開催でしたが、今回は対面とのハイブリッド形式で第1回役員会が2023年7月7日(金)に行われました。主な議題としては、同窓会としてのZoomライセンス取得、同窓会主体の奨学金事業の運用方法等について話し合いとなりました。

2023年11月10日(金)には第2回役員会が行われ、令和6年度入学試験合格者に対しての入会案内の発送の件や役員2名が新たに承認されました。また、12月1日(金)に渋谷区文化総合センター大和田にて講演会形式で学院祭開催予定であり、同窓会主催の講演会も予定している等の報告事項がありました。

次回発行の会報にて学院祭での同窓会講演の内容等皆様にお知らせしたいと思っております。

## 在校生の近況

### ～臨床検査技術学科からの近況報告～

#### 1) 3年生(56期生)の様子

今年度の3年生は、旧カリキュラム最後の3年生です。次年度からは新カリキュラムとなり、臨地実習は各養成校における臨地実習前の技能修得到達度評価の1単位を含めて12単位となります。

諸先輩方におかれましては、臨地実習における学生教育にご尽力いただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

次年度を見据えて、臨地実習前の技能修得到達度評価の試行調査(プレ講義・プレ実技テスト等)を3月におこない、4月から8月18日(金)まで臨地実習に励み、臨床現場での貴重な体験をさせていただけたと思っています。また、8月21日(月)、22日(火)と1泊2日で例年と同様、国家試験に向けての気持ちの切り替えも兼ね、山中湖へ合宿に行ってきました。新型コロナウイルス感染症の影響で、学内では何も行事をおこなってこなかった学年ですので、行き帰りのバスの中や食事等の際は話も弾んでいたようです。現在は、卒業、国家試験合格に向け切磋琢磨すると共に、併せて就職活動にも精を出している状

いくこととなります。より、メンタル面での支えも必要となってくるため、学校側も共に尽力していくことが必要となる時期に突入していきます。

#### 2) 2年生(57期生)の様子

新型コロナウイルス感染症の影響で見送りとなっていた体育祭が5月23日(火)に駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場でおこなわれ、日頃講義と実習漬けの学生たちも汗を流してきました。

1年生の時は、行事は体育祭も学院祭も見送りとなっていたため、多くの学生が楽しみにしていた様子で、男子バスケットボールの選手たちは、放課後こっそり練習を重ねて当日を迎えていたようです。

インフルエンザや新型コロナに感染する学生も散見されますが、現在は後期中間試験も終了し、毎日講義や学内実習に励んでいます。

2年生になると専門的な学習や実習が増えるため、より臨床検査技師の仕事を理解する事ができるようになりますが、その反面、学習内容の把握に困難さを感じる学生も増えてくる時期です。より学生の声に耳を傾けていかなければと思っています。放課後等も自主学習時間を持つことができるよう教室等を開放しています。

#### 3) 1年生(58期生)の様子

入学当初から多学年に比較し、少々幼さの残る学生たちでしたが、夏休みが過ぎた頃から、少しずつ勉強への意欲が出てきた学生も見うけられ、放課後の教室は2年生より自主学習をしている学生が多い日もあります。2年生と同様、インフルエンザや新型コロナに感染する学生が散見されますが、体調が許されればオンライン授業にも参加することができるため、基本は勉強に大きな遅れをとることはありません。

模擬人形を使用しての鼻腔口腔からの検体採取、血液標本作製や観察、模擬腕を使用しての採血、また手指消毒のやり方、手指の細菌培養や観察など、少々臨床に近づいた実習もこなし、座学の時より興味深く実習に励んでいます。2年生での本格的な実習に向けてのステップとして興味を持ちながら進んでいって欲しいものです。



## ～ 診療放射線技術学科からの近況報告 ～

### 1) 3年生(42期生)の様子

昨年に引き続き、前期期末試験を基礎科目系の前半と治療・核の後半に分けて行いました。前半は7月上旬、臨床実習を挟んで、後半を8月下旬に実施しました。以前と比べ、後半の科目の平均点に明確な上昇が見られました。実習先で実際に経験することで理解が深まったものと思われまます。

期末試験後はCanon那須工場にて医療装置の製作現場を見学してきました。最新装置に導入されている技術や原理の解説をしてもらい、有意義な研修となりました。

現在は国家試験に向けて鋭意勉強中です。

### 2) 2年生(43期生)の様子

カリキュラム改定後の初年度生です。診断部門の臨床実習期間が1週間増加されました。実習先の皆様には延長をご快諾頂きありがとうございました。インフルエンザが猛威を振るう中でしたが、なんとか無事に実習を終えることができました。学生もほっと一息ついているところですよ。

現在は後期課程がスタートして、最終学年に向けて勉学に励んでいます。

### 3) 1年生(44期生)

入学して半年が過ぎ、学内体育祭や上級救命講習などのイベントを通じてすっかり学校に溶け込んでいます。撮影学などの初めて触れる勉強に戸惑いながらも一歩ずつ医療人へと向かっています。第2種放射線取扱主任者試験に合格するなど意欲的に取り組む学生もいて今後が楽しみです。

現在は後期中間試験の直前ということもあり、多くの学生が遅くまで残って勉強しています。黒板を使ってお互いに教え合う様子も見られ、仲の良い雰囲気伝わってきます。



## 同窓生からのメッセージ

- 『東洋公衆衛生学院と私』と題して卒業生からの寄稿。多くの同窓生が、ご活躍・・・❤️ 東洋公衆衛生学院の歴史を感じます。ご寄稿ありがとうございました。

### 臨床検査技術学科 第7期生 望月 照次

私は、令和5年春、文部科学省から叙勲(瑞宝双光章)を授与されました。叙勲の伝達式は、5月12日(金)国立劇場で行われ、同日の午後、皇居内豊明殿において天皇陛下との拝謁を賜りました。当叙勲は長年勤務していた昭和大学からの推薦により今回の栄誉となりました。昭和大学には心から感謝申し上げます。私のこれまでの歩みを振り返ると、私の人生の出発点とも言える場所、それが「東洋公衆衛生学院」です。



私は、昭和47年(1972年)4月、東洋公衆衛生学院臨床検査技師養成科(昼間部)に入学しました。当時の校舎は甲州街道沿いにあり、赤茶色のレンガ風の小さな建物でした。学院の看板がなければ、校舎と気付かずに、そのまま通り過ぎたかもしれません。この頃の印象深い思い出に、校舎が古いためでしょうか、大雨が降った日は雨漏りがあり、授業が休講となったこともありましたが、但し、この年の秋、現在の場所に新築の校舎が誕生しました。新校舎は旧校舎に比べて、教室、実習室がどれも広く、明るいので、驚き、喜んだ記憶があります。しかしながら、新校舎に移転しても、この頃の私は何となく、毎日が憂鬱でした。それは、臨床検査の講義を受けても、臨床検査そのものが私にとっては未知の世界のために、講義内容が理解できずに暗澹たる日々を過ごしていました。ところが、少し風向きが変わり始めました。そのキッカケは学内実習が始まったことでした。講義だけでは理解できないことでも実技を体験して、ようやく臨床検査の意義、目的などが徐々に理解できるようになりました。例えば、血液を遠心分離して得た血清を検体として臨床化学、免疫血清検査を、抗凝固剤を用いた血液検体は赤血球、白血球、ヘモグロビン、ヘマトクリットの測定、微生物検査のグラム染色から腸内細菌の同定など、実習を通じた実技が極めて重要であることが理解できました。しかし残念ながら、実習の設備・機材が少なく、順番で実習を行いました。例えば、臨床化学の実習では比色計と反応セルが少なく、自分の順番が来て比色する時には、反応が進み過ぎてしまうなど、ドタバタの実習でしたが、楽しく学んだ思い出があります。

昭和48年10月から臨地(病院)実習が始まりました。当時の臨地実習は10月から翌年の9月までの1年間でした。指定された実習病院は昭和大学病院となりました。病院での臨地実習は、患者さんの心電図、脳波、呼吸機能検査、血液凝固検査の採血等々、様々なことを病院の臨床検査技師の方々から教えていただきました。病院実習では厳しいご指導を受けましたが、そのひとつひとつが自分自身にとって有意義な内容で、1年間の病院実習はとても短い時間と思えました。

病院実習が終わり、学院に戻ると卒業研究の課題がありました。私の研究課題は、「溶血が血清酵素活性に与える影響」でした。卒業研究は同級生同士、いろいろなことを話し合い、大変楽しい思い出があります。この後、就職、卒業、国家試験が待ち受けており、勉強も一段と佳境に入りましたが、幸いにも、就職(昭和大学病院)でき、卒業試験、国家試験も無事合格して、いよいよ卒業となりました。

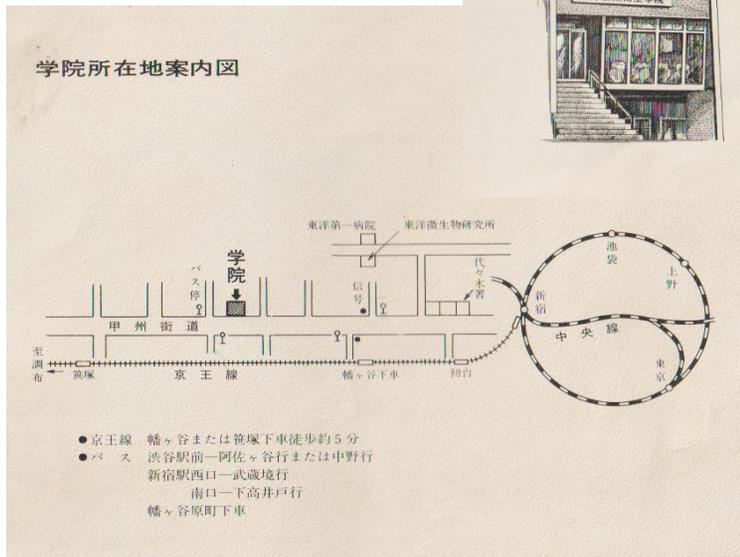
卒業後、当学院とはしばらくの間、疎遠の状態でしたが、二級臨床病理検査士「血清学」の主任試験委員を拝命し、実技試験会場が当学院となりました。そこで、当時の教務科長であった三村邦裕先生と二級試験に関する打ち合わせとは別に、私が学院の卒業生であることをご存知でしたので、「学院への恩返しのため、後輩の指導をお願いしたい」との依頼を受けました。しかし、この頃の私は日常業務も多忙を極め、即答は避けましたが、三村先生の、この一言は、その後の長

い間、私の胸の内に留まっていた。その後、学院の教務科長の山口聡先生とお会いする機会があり、定年退職を契機に当学院で非常勤講師として雇用していただき、後輩への指導をすることになりました。思い起こせば、三村先生の一言から随分と時間が経ちました。また、山口先生のご配慮から、ようやく学院への恩返しをする機会を与えていただきました。

私は、東洋公衆衛生学院で生まれ、育ちました。その理由は、当学院での勉学は、その後の私の人生に大きく影響を及ぼしました。臨床検査技師として長年にわたり、医療現場に携わることができたのは、あの甲州街道沿いの小さな校舎の階段を一步上がったところから始まりました。まさに私の人生の出发点そのものでした。東洋公衆衛生学院は、その長い歴史と実績から多くの卒業生を輩出し、その方々が医療現場の第一線で活躍されています。

現在の臨床検査学は広範囲で、なおかつ最新の検査技術の知識をも習得しなくてはなりません。

当学院臨床検査技術科の標語である「チーム医療の一員として、総合的な視野を持ち、患者さんの支えとなる人間力を備える臨床検査技師」を目標に、学生の教育に微力ながら尽力したいと思います。



院の臨床実習を受け入れている数少ない大学病院であり、学生時代には解剖学実習(標本室見学)で大学を訪れたこともありました。

また、卒業生の就職先として1期から5期の先輩方が西新橋の本院に5名ほど在職されていたと記憶しています。私が入職後も多くの後輩達が慈恵大学に就職し、最も多くの卒業生が活躍している大学病院であると自負しております。

では、私がOBとして深く関与したのは何だったのか、それは第三病院における臨床実習の受入れでした。当時の第三病院は各技師学校からの臨床実習の受入れを拒み、ほぼゼロの状況でした。転機は、本院に勤務されていた技師長補佐が第三病院に技師長として着任され組織改革に取り組み始めたことであり、これを契機に臨床実習受入れを提案し、学校側とも交渉した結果、本院だけでなく第三病院においても受入れが了承され、今も継続しています。

現在は、技師長という立場で各大学・専門学校から多くの実習生を受け入れております。大学病院にとって臨床実習施設であることは、専門職としての知識・技術・経験・意識の向上に繋がり、双方においてWin-Winな関係であることは、今も昔も変わりません。ひとりでも多くの学生が診療放射線技師として職務に就けるよう指導しております。

近年、医業は大きな変革期を向かえており、我々診療放射線技師も例外ではありません。“臨床検査技師は大変だけど、診療放射線技師の仕事は変わらないから大丈夫!”なんて思っている同窓生はいませんか? 業務拡大の波は、大きな津波と成る兆しが見られます。正確な情報と自身の行動が不可欠です。2025年3月に卒業する学生は、全員告示研修を修了しているニュータイプです。当然、先輩の皆さんは大丈夫ですよ!!!

▶ 編集後記

毎度毎度ですが、忙しさを理由に第15号の発刊が遅れたことをお詫び致します。

今年度は学院祭も体育祭も久しぶりに開催され、学院祭も発表会・講演会を主体として開催される予定となっております。

今後ご支援のほど、よろしくお願い致します。

編集委員長 青柳ますみ

診療放射線技術学科 第7期生 馬場 康史

(現 慈恵医科大学附属第三病院

放射線部技師長)

今回、還暦間近に迫る私に執筆依頼が舞い込んできたことに困惑しております。東洋公衆衛生学院を卒業し34年の歳月が流れており、当時の記憶が薄れつつある私にとっては難題でしたが学校(東洋公衆衛生学院)との関係が無いわけではなく、医療機関側から学校を見てきた責任として、遠い昔を偲びながら筆を執ります。

私は、東洋公衆衛生学院の7期生として平成元年3月に卒業し、診療放射線技師として社会に出ております。就職先は、学校法人慈恵大学勤務は、東京慈恵会医科大学附属第三病院でした。当時を振り返ると、卒業校は日本放射線技師会の反対を押し切って開校しており、実習施設の受入れ拒否に始まり、就職においても敬遠される医療機関が存在するなど、業界における異端的な扱いであったと記憶しております。当然、職場に先輩などいるわけでもなく、“どうして慈恵に入ったの?”と疑問視されていました。しかし慈恵大学は東洋公衆衛生学

**同窓生からの原稿を募集します!**  
 同窓会会報を同窓生のコミュニティの場にしませんか?  
 卒業生の活躍を掲載したいと思います。広く原稿を募集していますので、下記メールアドレスまで投稿して下さい。  
**facebook でも情報発信中**  
 ホームページ @toyoCollegeAlumni

東洋公衆衛生学院 同窓会事務局  
 151-0071  
 東京都渋谷区本町 6-21-7  
 電話番号 : 03-3376-8511  
 FAX 番号 : 03-3376-4345  
 メールアドレス: yama@toyo-college.ac.jp

